

療育研修会

広島県 支部

◆テーマ 筋ジストロフィー患者・家族の心支援 講師 松永美希

- 自分にとって困難であった状況について思い出しみよ。
- 大変な状況を投げ出さなければやってこれたのは（気持ちの変化）
- そのことはどんなことに役に立ちましたか。
- どんな力がそうさせたのでしょうか。 案. ワークショップ方式で各自発表をしいたけました。
- 周囲からの支援では、順位をつけて支えてくれている人を書き出しました。
- 今まで気が付かなかった、多くの人の支で、生きていることに改めて感謝し生きて行くと思ひました。

◆テーマ サポートブック記入について 講師 小林喜三

- 筋ジストロフィー症は進行し難病であるから、多くの人に関りて生活し行く必要があり、子供の成長の姿を多くの人に知ってもらい、ここで、理解を深めていただくことを目的に記録しておく。
- 保護者は、本人の様子を思い出し、整理して書くことにより、本人の気持ちや行動の特徴に気付くことができる。
- 保護者は、関係機関と連携する際に、大切な情報を整理し、分かりやすく説明することができる。
- 乳幼児期、学齢期、青年、成人期のシートを選択し、実際に記入しました。

療育研修会実施状況

広島県支部 参加数 36

テーマ ◆ 筋ジストロフィー患者と
家族の心支援

◆ サポートブックの記入について

講師 医師 松永 美希

大学教員 村井 和代

実施場所 広島ガーデンパレス



実施を終えて（感想等）

参加者の感想等、必ず記入して下さい。

「素敵なお話を、ありがとうございます。参加者からのお礼の言葉が
ありました。

子育てに不安があります。多くの人の支えで生かされていることに気が
おかせました。

満ち足りていることに気がおきました。豊かな気持ちになりました。

療育研修会実施状況

広島県支部 参加数 36

テーマ ◆ 筋ジストロフィー患者と
家族の心支援

◆ サポートブックの記入について

講師 医師 松永 美希

大学教員 村井 和代

実施場所 広島ガーデンパレス



実施を終えて（感想等）

参加者の感想等、必ず記入して下さい。

自分にとって困難であった状況について各自発表しました。
現実を受け入れるのに時間がかかりましたか、出来なくなったことを
なげくより、残った機能に「ありがとう」が言えるまじになりました。
「向き直り」は共通の言葉でした。